

■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4 時間足、1 時間足分析を掲載します。
分析は、全て、先週末 7 月 14 日の日足終値(NY 時間午後 5 時)時点での判断です。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

■ドル円

<<週足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面だが、センターラインが下値サポートとなって反騰のシナリオもあり、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

また、今後、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σラインから+2σラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと判断する。

<<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

<<4時間足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面だが、センターラインが上値レジスタンスとなって反落のシナリオもあり、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンとなる。

一方、今後、終値が -2σ ラインを下回るまでは、 -1σ ラインから -2σ ラインのゾーンは、一旦は押し目買いチャンスと判断する。

<<1時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

■ユーロドル

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、買いシグナルの順行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、
等々。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<4 時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

また、終値がセンターラインを下回ると、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

そして、今後、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

尚、センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

<<1 時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

■ポンドドル

<<週足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサイン点灯中。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、赤色スパン陽転、及び、買いシグナルの順行パターンの買いサイン点灯中。

<<4時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

また、終値がセンターラインを下回ると、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

そして、今後、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーン

は一旦は戻り売りチャンスと判断する。

尚、センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

<<1 時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が -1σ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

■ユーロ円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。ただし、リバーサルパターンが発生しており、上値重い展開。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1)現在値が1本前の安値をブレイクすること、(2)終値が $+2\sigma$ ラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<4 時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

<<1 時間足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の順行パターンの買いサインが点灯中。

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

尚、買いシグナルの逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

<<4時間足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると-2σラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと+2σラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となる。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。
目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

■ポンド円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。ただし、リバーサルパターンが発生しており、上値重い展開。
終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

「リバーサルパターン」の条件は、反落の場合、(1) 現在値が1本前の安値をブレイクすること、(2) 終値が $+2\sigma$ ラインを下回ること、の両方を満たすこと。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが理由。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 -1σ ラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 -2σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<4 時間足>>

調整反騰局面の最終ターゲットである $+2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、終値が $+1\sigma$ ラインを下回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

<<1 時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

また、終値がセンターラインを下回ると、 -2σ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

そして、今後、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

尚、センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから -2σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面

に入る可能性が高まる。

尚、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサインが点灯中。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。
また、スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期の判断となる。

以上です。